

事業所における自己評価結果（公表）

公表：平成 31 年 3 月 8 日

事業所名 児童発達支援センターひかり園

職員数：22 名 配布数：13 名 回収数：12 名 割合：92%

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	10	2	利用定員に対して、十分なスペースが確保している	・法令を遵守したスペースを確保しています。
	②	職員の配置数は適切であるか	8	2	利用定員に対して、基準以上の配置をしている。	・法令で必要とされる配置数に加え、非常勤職員を 3 名配置しています。しかし、業務の多様化により、兼務の職員もいるため、職員体制を流動的にせざるを得ない時もあり、配置体制を検討していきます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達 等への配慮が適切になされているか	5	5	建物の老朽化もあり、修繕が必要に応じて丁寧に行なう。子どもの導線はわかりやすい空間になるよう工夫している。(バリアフリー化は不足している)	・園庭が 2 ヶ所あり、建物の構造上死角になる所もあるため、表園庭は乗り物遊び、裏園庭は砂遊びや総合遊具を使用して遊ぶなど安全面の配慮をしながら環境設定をしています。子どもたちにとって過ごしやすい環境になることに努めます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	5	3	シンプルでわかりやすさのある空間をつくるようにしている。遊戯室は使用目的に応じパーテーションで区切り、子どもの特性に応じた支援ができるようにしている	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	5	1		・指導者会議・ケース会議・学習会等で支援内容の振り返りや見直し検討を行なっています。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7	2		・評価表を用いて保護者への意向の把握を行ない改善に繋げていきます。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	4	5		・自己評価結果を園の HP にて公開します。 ・保護者及び事業所内の 2 者評価をとっています。第三者による外部評価については現在実施の予定はありませんが、必要に応じて実施を検討してまいります。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	6	2		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	11	1	講演会や事例研修会などに参加し、研修報告を行ない職員間で研修内容を共有している	・職種や経験に応じた研修に派遣し専門性を高めます。
切 適	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析	12		子どもの姿を捉え職員間で検討。課題や支援内容を検討し計画を作成	・前期・後期とアセスメントやモニタリングを行ない、児童発達支援計画を作成

	した上で、児童発達支援計画を作成しているか			成している。アセスメントで保護者の思いを聴取し計画に反映。	しています。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	7	4		
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	9	1		・障害児支援利用計画やアセスメントした情報をもとに課題整理を行ない、 【身辺自立】【からだ・運動（粗大・微細）】 【言葉・対人関係】 【遊び】の項目に沿い具体的な短期目標や支援内容を検討後、作成しています。家庭支援についても具体的な内容を明記しています
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	12	1		・活動内容については、年間療育目標、前期・後期の支援目標に沿い、リーダー
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	11	1	クラス会議等で検討している	会議、クラス会議、年長会議とそれぞれクラスの枠を超え全職員で意見を出し合い、活動プログラムを立てています。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	10	1	子どもたちの姿から活動内容を検討している	
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成しているか	8	3	状況に応じて個別対応が必要なときは支援している	
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	9	3	朝礼時に職員体制を把握し、活動内容をクラス別に確認、日課の流れに沿い、職員の動きや役割を決めている	・終礼で実施し職員間で情報共有を行なっています。また、会議（ケース・指導者会議等）で、クラス運営や子どもの評価、支援の在り方等について検し、充実した支援に繋がるよう努めています。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、気付いた点等を共有しているか	10	2	振り返りを毎回行うことは難しいが、関わりの困難さや気づきなどがあればクラス内でタイムリーに確認し話し合う。	
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	11		活動内容や個々の子どもの姿を療育日誌に記録している。日誌やケース記録をもとに学期ごとに【療育的	・療育日誌で記録したものをもとにクラス日より年長日より等を作成し、定期的に発行しています。保護者の方に支援のねらいや療育内容の今後の展開等についてお伝えし理解を得ています。
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	11		支援の見直しとして「あゆみ」を作成し、保護者と子どもの成長や課題を共有し支援計画に繋げている	・前期・後期のモニタリングのひとつとして、「あゆみ」をもとに保護者との個別懇談実施し、子ども理解を共有しています。
や 保 護 者 関 係 機 関	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	8	1		
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関				・こども発達支援センターや障がい福祉

	係者や 関係機関と連携した支援を行っているか	8	3		課、ネウボラ課等と必要に応じて情報共有や相談、報告を行ない適切な支援を行なえるよう努めています。
	⑳ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	4	1		・現在、医療的ケアが必要な子どもは在籍しておりません。
	㉑ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	3	2	医療的ケア児ではないが、関わっている医療機関との情報共有が希薄である。保護者を通して情報を得ることが多い	
	㉒ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	10	1		・移行がスムーズに行なわれ、充実し安定した生活がおくれるように子どもの特性や状態像について丁寧に伝え連携を行なっています。入園する児童についても、児童発達支援事業所等から引き継ぎを行ない、適切な支援に繋げていきます。
	㉓ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	11	1	子どもの特性や課題など支援について伝えている。引継ぎという形で行うことが多い	
	㉔ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	9	3	研修会や公開療育などセンターや事業所の職員と学びあう機会には積極的に参加している	
	㉕ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	4	8	年に1度、隣接している小学校の1年生と年長児と交流している(他の保育所と合同)	・小学校の交流行事に参加することで、子ども自身入学に向けて期待や見通しがもて継続して取り組みます
	㉖ (自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	3	6	福山市障がい者総合支援協議会発達支援部会や療育支援事業の会議に参加している	
	㉗ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	12		おたより等で随時、子どもの状況を伝えている。懇談や支援計画で課題や支援について伝え共通理解ができるようにしている	
	㉘ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	5	6		・家族支援プログラムについては職員の研修は継続していきますが、保護者に向けた家族支援プログラムは今後検討していきます。
保護者への説明責任等	㉙ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	8			入園説明会で契約をして頂くときに行なっています。
	㉚ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児	11			・家庭訪問や懇談を設けて説明をしています。

	童発達支援計画の同意を得ているか				
	③④ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	12		連絡帳でのやりとりや懇談などを通して適宜対応している	・保護者同士が交流できる場として静養室を開放し、保護者会活動に利用されています。保護者会活動は保護者主体ではありますが、協力や支援はしています。
	③⑤ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	10	1	パパ会・ママ会が開催され職員も参加し気軽に話せる交流の場をつくっている	
	③⑥ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	11		相談事など返答に困ったときは他の職員に確認し、迅速に対応できるように努めている	・気軽に相談できる信頼関係を構築しながら、子どもの育ちへの願いや子育ての不安や悩みを受け止められるようにタイムリーに話し合いができるように努めています
	③⑦ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	12		園だより、クラスだより、週に1回のおたよりなどで、随時子どもの様子や園のことを伝えている。	・療育活動や行事のねらいをたよりで知らせ、保護者の方が見通しをもてるように工夫しています
	③⑧ 個人情報の取扱いに十分注意しているか	10	1	注意している。特定しやすい情報は伏せている	・取り扱いについては、同意を得てから関係機関と連携しています また、入園時に個人情報の取り扱いについて説明し、同意を得ています。
	③⑨ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	12		その子自身や背景など総合的に把握し、伝え方を配慮している	
	④⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	3	6	招待ではないが、民生委員の方にボランティアとしてご協力いただいている	
非常時等の対応	④⑪ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	7	3		・火災を想定しての避難訓練を定期的に実施し、「通報・避難・消火訓練」を消防士の指導のもと年に1回実施しています。各種マニュアルは策定しておりますが、職員や保護者に周知するには至っておりません。訓練の実施を含め、計画していきます。
	④⑫ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	8	1	火災を想定しての避難訓練を定期的に実施している。	
	④⑬ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	11			・新年度に調査票による園児の健康状態の把握をし、職員間で共有しています。また、食物アレルギーに関しては・医師の指示書のもと除去食など対応しています。
	④⑭ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	12			
	④⑮ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	12			・日々終礼時に「ひやりはっと」の確認をしています。具体的な対応策を検討し、事故防止意識を高めています。また安全点検日を定め、危険個所の改善に努めています

	<p>④⑥ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか</p>	9	2		<ul style="list-style-type: none"> ・年度はじめに「倫理要綱」の読み合わせなど職員としての心得などを確認し、支援姿勢について自ら考える機会にしています。 ・虐待防止啓発のための研修会に参加し、全職員学習の機会として研修報告を行なっています。
	<p>④⑦ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか</p>	4	6	<p>室内の鍵については、安全面と指導に必要な場合にかけることを保護者に伝えている。できるだけ鍵をかけることは控えるよう心がけている</p>	<p>・鍵については全体指導の時の安全面の配慮のためかけることもありますが、隔離のためにすることはなく、身体拘束することはありません</p>

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。